

2021 年度入試 刑法A日程 出題の意図

問題 1 は、刑法各論に関する重要な概念のごく基礎的な理解を問うものである。事例を設定させるのは、適切な事例設定は正しい知識の裏打ちを測るために有用だからである。

(1) は、文書偽造罪の基本的な法的性質を決定する「偽造」概念に関する基本的な理解を問うものである。「有形偽造」と「無形偽造」の意味合いの差、我が国の刑法が有形偽造の処罰を原則としている理由といったごく基本的な理解が示されていることが望まれる。(2) は、多くの財産犯において（通説によると）要求される心的要素である。その要否および法的位置付けに関する見解の対立が理解できているかを問う。

問題 2 は、不作為犯と共犯という刑法総論上の典型論点につき包括的に問う事例問題である。作為義務の存否および特に X の正犯性に関する適切な認定を前提に、保障人的地位と刑法 65 条の「身分」との関係が理解できており、幫助の場合と共同正犯の場合とで適切に当てはめができるかを問うている。